

永遠に思われた灼熱の日々でしたが、気づけば夕方には秋の虫の声が聞こえるようになりました。8月の礼拝も今日で最後です。感謝と賛美で、夏を送りましょう。

回り道での出会い

「イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた」と記されています。これは、「大阪から神戸に行く途中、びわ湖を通られた」と言うようなものです。逆方面にわざわざ引き返されたのです。しかも、そこはユダヤ人が交際しないサマリアの地でした。ボーダーライン（国境線）には、古今東西共通して、特有の緊張感があります。イエス様は、わざわざそんな場所に出向かれました。

ここに、神の愛を示されるイエス様の証しがあります。私たちの安泰な場所ではなく、人生の回り道に、わざわざ顔を出してくださるイエス様の存在があるのです。友人のありがたさを感じるのは、しばしば自分が落ち込んでいる時、うまくいかない時です。そんな時に会いたいなあと思う人は、本当に自分が好きな人でしょう。もしも、イエス様を偉い人、先生のような存在で考えているなら、それは違います。賛美歌にある通り「愛しみ深い友なるイエス」なのです。人生のつまずきは、無いに越したことはありませんが、そこで最高の出会いをするという、恵みへのどんでん返しがあるなら、それもまた悪くありません。人生の寄り道は、祝福の入口です。

感謝と賛美

「不幸な星の下に生まれた人も、幸運な人もいない。自分がそうだと思っている人がいるだけ。そして、その信じた通りになっていく。」という言葉を見かけました。

十人の不治の病で社会からはじかれた人々がいました。イエス様は、彼らを奇跡で癒してあげました。しかし本当に心に留めるべき奇跡が起きたのは、そのうちの一人のサマリア人が、感謝と賛美を携えて、イエス様のところに駆け寄ってきた時でした。それは神様の御心にかなう、本当に美しい姿でした。

他の九人も、神の愛の恩恵に預かったことは確かです。けれども、その魂まで救われたかは分かりません。人からは順風満帆に見える人生も、悩みや苦しみは必ずあるものです。けれども、この一人のサマリア人は、癒しという事実だけでなく、その源、すなわち神の愛に気付いたのです。そして人生の向こう側にある、見えない力をほめたたえたことが違いました。両手をあげて、目を潤ませて主を讃える姿に、すべての悩みや苦しみから解き放たれた、救われた姿が見えます。

イエス様はそれを「あなたの信仰があなたを救った」と激励してくださいました。

私たちも今朝、この一人となれたら何と幸いでしょう。神の愛を示されて、喜んで帰るだけは他の九人と同じです。救いを魂にまで届けるのは、感謝と賛美なのです。